

日本学術会議社会学委員会「社会統計調査アーカイブ分科会」
(第24期・第6回会合)

開催日時：2019年10月19日(土)13:00-14:00

開催場所：首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス(秋葉原ダイビル12階)

出席者：石井クンツ昌子、今田高俊、岩井紀子、吉川徹、白波瀬佐和子、
盛山和夫、玉野和志、鳥海不二夫、真鍋一史、大谷信介

欠席者：岩永雅也、近藤博之、佐藤嘉倫、園田茂人、原純輔、佐藤岩夫

議事要旨

- (1) 前回議事要旨の確認・承認
- (2) 日本学術会議社会学委員会 社会統計調査アーカイブ分科会主催 公開シンポジウム「社会調査のオープンサイエンス化に向けての課題」打合せ
＜進行プログラム＞(敬称略)
 - ① 石井クンツ昌子：開会の挨拶
 - ② 佐藤香：報告「SSJデータ・アーカイブの展開と今後の課題」
 - ③ 真鍋一史：報告「ドイツとアメリカのデータ・アーカイブーその歴史・現状・課題ー」
 - ④ 鳥海不二夫：報告「ビッグデータの取得と利用」
 - ⑤ 玉野和志：報告「官庁統計の現状と課題」
 - ⑥ 宍戸常寿：報告「個人情報保護とデータ利用の法的整備について」
 - ⑦ 白波瀬佐和子：閉会の挨拶
 - ・今期は提言をださない。
 - ・本シンポへの感想アンケートをはじめに配布し会の終わりに収集。
- (3) 次期の委員会への引継ぎを念頭においた、方向性に関連した議論
 - ・社会統計調査アーカイブは、次に引き継ぐテーマとして妥当か。
 - ・最近の傾向としてビッグデータへの関心が集まっているが、調査倫理の問題を正面から取り扱う必要があるのではないか。
 - ・ウェブ分科会との合同開催の可能性を探る。
 - ・JGSSとの関連で、データインフラに関連したシンポを企画している。
 - ・次期のメンバーが確定したのち、新たな分科会構成が決定される。
 - ・次なるテーマについては、今期でも一度議論すべきではないか。
 - ・ウェブ調査やビッグデータへの関心の高さもさることながら、このような時代変化、背景をうけて、社会調査を全体の中で議論することが大切である。
 - ・先回の日本社会学会大会でも、『ビット・バイ・ビット』の書評セッションで多くの出席者があったことから、これらのテーマへの関心は高い。ビッグデータと無作為調査との関係についての議論も重要である。
 - ・ウェブ分科会については、今期での終了を視野にいれているが、2019年1月に分科会の開催が予定されており、可能であれば合同での開催も考えても良いのではないか。
 - ・本分科会は12年ほど前に立ち上がった。この長い歴史をうけて、何か新たな枠組みでの展開を検討することができるか。

- ・「データサイエンスと社会調査」といったことも、新たなテーマとして候補になろう。
- ・「データサイエンス」というと、専門的に統計学にひっぱられるのではないか。どうデータを集めるか、というデータ収集の根本的な問題に今一度立ち戻るべきではないのか。
- ・理系の分野では、どうデータをとるのかといったそもそも論のところはあまり検討されないので、そのあたりの議論があると理系研究者としてもありがたい。たとえば、社会心理学あたりでクラウドソーシングを活用したデータ収集もあるくらいなので、データ収集へのそれほどのこだわりはないイメージもあった。
- ・若手研究者の間では、データサイエンスに関して関心は高い。
- ・データ・アーカイブを議論するにあたって、そもそも展望がないのは問題でないか。
- ・統計不正の問題について、何か物申す必要があるのではないか。社会学者の関与が限定的である。
- ・自治体にあって、社会調査教育の需要は高い。
- ・政治学委員会では、公的統計問題についてのシンポジウムが予定されている。

(4) その他

- ・シンポジウム開催にあたって、非会員への謝金支払に関連した問題提起があった。
- ・次回委員会については、追って日程調整する。

以上